

表 - 3 クマタカの保護対策上重視される「営巣中心域」と「高利用域」の内容

営巣中心域	
定義	<ul style="list-style-type: none"> ・広義の営巣地として一体的に取り扱われるべき区域。 【主として営巣木とその周辺の森林が該当し、クマタカの繁殖維持のために現況を保護する必要があるエリア(Protection Area)】
利用内容	<ul style="list-style-type: none"> ・営巣木及び古巣の位置 ・交尾場所 ・営巣期(造巣～巣立ちまで、概ね1月～7月)の埒(ねぐら)のとまり場所 ・営巣期の監視のためのとまり場所 ・巣に対する防衛行動が頻繁に見られる場所 ・巣立ち後の幼鳥が独立するまで(巣立ち後半年間程度)に利用する場所 ・営巣期及び巣外育雛期の給餌物の解体場所(食痕の位置) ・営巣木・古巣を含む営巣可能な樹種や森林構造からなるひとまとまりの林分
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の主要な利用箇所を確認し、これらを包含する範囲を囲い特定する。 ・主として踏査、一部定点調査により把握する。
各種開発行為等の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・建造物等の諸工事、および道路建設、ダム建設、リゾート施設等の開発行為は基本的に回避する必要がある。 ・林業については、原則として天然林の伐採は行わず、人工林においても営巣期は避け森林の維持管理に必要となる最小限の施業にとどめる。また、この範囲内における林道および作業道の新設は控えることとする。 ・営巣期における人の立ち入りは、生息に支障をきたすおそれがあるため制限するものとする。また、その他のクマタカの保護上問題になる行為については事前の調整を図る必要がある。
規模の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・営巣地から半径500m～1.0km程度(具体的な開発計画に対しては、個別に詳細な調査を実施してから判断する。) 【既存の営巣地情報を用いて開発行為等の事前回避を行う場合には、営巣中心域を営巣地から半径1.0kmと想定するものとする。ただし、林業の施業については、放置することによるマイナスも考えられるため、半径500mの距離目安を用いる。】
高利用域	
定義	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖期(概ね12月～8月)の採餌場所、主要な飛行ルート、主要な旋回場所、主要なとまり場所等を含む繁殖期に利用度の高い区域で、各種開発行為により、繁殖活動に悪影響がおよぶおそれのある区域。 【主として採餌場所としての森林や草地等が該当し、クマタカの生息維持のために相対的な質・量を保全する必要があるエリア(Conservation Area)】
利用内容	<ul style="list-style-type: none"> ・採餌行動確認場所(ハンティング・エリア) ・主要な飛行ルート ・主要な旋回場所 ・主要なとまり場所 ・繁殖期に繁殖や採餌に関係する特徴的な行動がみられる範囲
調査手法	<ul style="list-style-type: none"> ・1/25,000以上の地形図に一边250m程度のメッシュを設定し、95%行動圏の平均出現頻度以上の該当メッシュを囲んだ地域を判定する。 ・主に林内の移動やとまりを中心とした生活様式にあるため、上記の判定結果のみでは特定されない場合があり、繁殖や採餌と関わりのある特徴的な行動を取り出し、地形や植生のまとまりも考慮したうえで上記と比較し判定する。 ・主として定点調査(行動圏調査)により把握する。
各種開発行為等の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・道路建設、ダム建設、リゾート施設等の開発行為は、高利用域に対する影響の程度を的確に把握したうえで、この範囲内の自然環境の質・量の保全が充分図られ、高利用域の機能が維持されるよう保全対策を実施するものとする。また、建造物等の諸工事については、繁殖期を避ける必要がある。 ・林業については、天然林の伐採は極力控え、人工林においても営巣期は避け、可能な限り長伐期施業とし、皆伐の面積は一伐区あたり概ね2ha以下とする。また、餌資源の少ない大規模人工林においては、間伐などの育林作業の実施、林齢構成の平準化の促進などととも、林相転換による地域の潜在的な天然生樹種を積極的導入する。 ・また、その他のクマタカの保護上問題になる行為については事前の調整を図る必要がある。
規模の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・営巣地から半径1.5km程度(具体的な開発計画に対しては、個別に詳細な調査を実施してから判断する。) 【餌生物の量や採餌場所の位置、地形などによって規模は異なり、また単純な円形にはなっていないが、面積にして概ね700ha程度が該当する。】